

# 3. 大雨時のとるべき行動

## 3-1 警戒レベルと災害時のとるべき行動

災害時のとるべき行動を判断するにあたり、豊中市が発表する警戒レベルを参考にしてください。

警戒レベル	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	命の危険 直ちに安全確保	災害発生情報
4	危険な場所から全員避難	避難勧告・避難指示(緊急)
3	危険な場所から高齢者等は避難	避難準備・高齢者等避難開始
2	ハザードマップ等で避難行動を確認	大雨・洪水注意報 (気象庁)
1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※令和3年2月1日現在

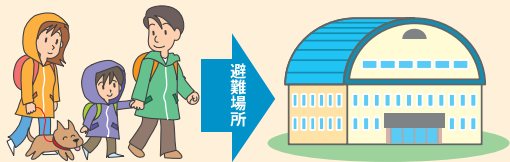
区域等	とるべき行動	留意点
早期立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流・河岸侵食)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 氾濫流が既に始まっている場合など、指定緊急避難場所等への移動がかえって危険な場合は、近隣のより安全な場所へ避難が必要。</li> <li>● 外出することすら危険な場合は、屋内安全確保が必要。</li> </ul>
	家屋が水没するおそれのある区域 (浸水深3m以上)	
その他の浸水想定区域 (浸水深3m未満)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 床上または床下浸水が想定されることから、立ち退き避難が望ましいが状況を踏まえ屋内安全確保でも良い。</li> <li>● 1階が浸水するおそれがある区域の1階建ての建物等においては、早期の立ち退き避難が必要。</li> </ul>	

## 3-2 避難時の心得

避難行動には、「立ち退き避難」(水平避難)と「屋内安全確保」(垂直避難)があります。

### 「立ち退き避難」(水平避難)

自宅等から避難場所や安全な場所へ移動する避難行動。



### 「屋内安全確保」(垂直避難)

自宅等建物の上層階に留まり、安全を確保する避難行動。



## ■ 避難時の心構え

情報を収集!	避難する前に確認!	動きやすい服装で! 避難は運動靴で!	避難はできるだけ 二人以上で!	助け合って避難を!
気象情報や避難情報などの防災情報を集めましょう。 	電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難しましょう。 	長靴では水が入ると動きにくくなります。 	一人だと、いざという時に助け合えません。 	高齢者や外国人、身体の不自由な方には、皆で助け合って避難しましょう。 
マンホールや水路の周辺	地下は危険です!	避難は徒歩で! 自動車は使わない!	アンダーパスは通らない	もし逃げ遅れたら…
やむを得ず夜間に避難しなければならなくなった場合、転倒や側溝への転落に十分注意をしましょう。 	地下では外の様子がわかりません。地上が浸水すると一気に水が流れ込んできます。 	自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。 	アンダーパスが冠水し自動車の水没する可能性があります。 	浸水が始まり、立ち退き避難が危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くの待ちましょう。 

3 大雨時のとるべき行動

## ■ 新型インフルエンザ等感染拡大下における避難について

新型インフルエンザ等感染症が収束していない中でも、災害時には危険な場所にいる人は迷わず避難することが原則です。災害の危険が迫り、避難をする場合には、感染症対策に万全を期すことが求められます。

### ■ 親戚や友人の家への避難が可能か

避難先は小中学校等だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

### ■ 安全な屋外で車中泊ができる場所があるか

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむを得ず車中泊をする場合は、周囲の安全確認を十分に行ってください。

## 3. 大雨時のとるべき行動

### 3-3 要配慮者への支援

- 要配慮者を災害から守るためには、地域全体の協力が必要不可欠です。
- 要配慮者ご本人を交えて支援する体制を築いておきましょう。
- 要配慮者を支援する人びとを地域住民全員で支えることも忘れずに。

#### ■ 要配慮者とは

要配慮者とは、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、外国人など、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとることに支援を必要とする人びとのことです。

#### 避難するときはこんな支援を

##### 高齢者には

- まず声をかけ、安否の確認を行う。
- 救助は複数の支援者で対応する。
- 緊急時は介助しながら安全な場所まで誘導する。

##### 目の不自由な人には

- 「お手伝いしましょうか?」と、まず声をかける。
- 杖を持った方の手をとらず、ひじのあたりに触れゆっくり歩く。

##### 耳が不自由な人には

- 正面に向き合って口をやや大きめに動かしてゆっくり話し、口の動きで情報を伝える。
- 手話や筆談のほか、手のひらに指先で文字を書いて情報を伝える。

##### 車いすの人には

- 階段や急坂では必ず2~3人で援助する。
- 上がるときは前向き、下がるときは後ろ向きに。



##### 内部障害のある人には

- かかりつけ医などの情報収集や医療機関への連絡を支援する。

##### 知的障害のある人には

- 一人にいるときは、声をかけて落ち着かせ、安全な場所へ誘導する。
- 言葉で理解されない場合は、手を引いて安全な行動ができるよう誘導する。

##### 精神障害のある人には

- 簡潔に状況を説明し、安心させ見守る。

##### 日本語でのコミュニケーションが十分でない外国人には

- 身振り、手振りでも話しかけ、孤立させない。

#### 要配慮者のみなさんへ

災害時の混乱の中では、遠方の支援者がすぐにはかけつけることは困難です。また、支援者が被災している場合も考えられます。このため、できる限り隣近所に、複数の支援者をつくるようにしましょう。隣近所の人に、「自分には災害時に支援が必要である」という意思表示を日ごろから行い、協力を得られるようにすることも身の安全を守る第一歩です。

- 妊娠している人は、どこに行くときにも必ず「母子手帳・健康保険証・診察券」を持ち歩くようにしましょう。
- 持病のある人は、カードに病名・薬・主治医などを書いて常に携帯しましょう。
- 服用している薬があれば携帯しましょう。
- 自宅以外の連絡先を、友人や日ごろ利用している施設に連絡しておきましょう。
- いざというときに自分の居場所を周りの人に知らせることができるよう、笛・ブザーなどを用意しておきましょう。

#### 災害時の安否確認のための登録

- 豊中市では、災害発生時に自力避難が困難な人(避難行動要支援者)の名簿を作成しており、対象者には平常時から地域ボランティアへ個人情報を提供しておくことへの意思確認を郵送にて行っています。災害時には安否確認や、必要に応じて避難支援などを行います。なお、個人情報の提供について同意いただいても、必ずしも災害時に支援を受けられるとは限りません。可能な範囲での備えをお願いします。
- 対象者=65歳以上の単身世帯で要介護1,2または要支援1,2の人、要介護3以上の人、身体障害者手帳1級,2級を持つ人、精神障害者保健福祉手帳1級を持つ単身世帯の人、療育手帳Aを持つ単身世帯の人、難病患者(一定要件を満たす常時人工呼吸器の装着が必要な人)

お問い合わせ

長寿安心課 ☎ 6858-2237

障害福祉課 ☎ 6858-2266

危機管理課 ☎ 6858-2683